

世界のハイウェイに「安全・安心・快適」を届けよう！

阪神高速の取り組み

阪神高速道路は、1964年に開通して以来60年以上にわたり、高速道路の建設・運営・維持管理に取り組んできました。インフラ整備需要が高まっているアジア・アフリカなどの各国を対象に、

阪神高速の実績と経験を活かして社会インフラに係る課題解決に取り組んでいます。

今回は阪神高速が取り組む国際貢献活動についてご紹介します。

阪神高速は実績と経験を活かし、さまざまな国際貢献活動に取り組んでいます

1 阪神高速の海外での役割は？

阪神高速はかねてより国際貢献活動を行っており、主に国際協力機構(JICA)を通じて、アジア・アフリカ地域を中心に活動に取り組んできました。

2018年には民間企業の海外展開を推進する「海外インフラ展開法」が成立し、その後押しもあり、さらなるビジネス展開を進めていくことで、現地の課題解決につながると考えています。

阪神高速の国際貢献活動といつても私たちが自ら、高速道路の建設や管理をしているわけではありません。道路維持管理や用地管理など、道路マネジメントの様々な課題に対して、現地の人の手で解決できるようお手伝いをしています。

当社の国際貢献活動はJICAを通じ、1970年代にスタートしました。ケニア、エチオピア、タイ、マラウイ、カンボジアなどへの専門家長期派遣に加え、各国との技術交流を促進したり、コンサルタント業務を受注するまでになりました。



タイEXATでの技術デモンストレーション

たとえば道路メンテナンスでは、その国の事情や現地のニーズに合わせ、最適な管理方法を提案します。特にケニアでは、道路維持管理の新たな契約方式を導入するお手伝いをしました。通常、補修工事は区間・期間・手法・数量などをあらかじめ定め、それをもとに作業を行います。一方、新たな契約方式では、維持管理で達成すべき目標を設定し、施工業者の裁量で目標を達成・維持する手法を取り入れています。この契約手法により、ケニアでは以前より道路のコンディションが良くなりました。自主的な裁量に任すことで仕事のモチベーションが上がり、よい結果が生み出されたと考えられます。

また、維持管理以外でも道路管理の課題は多岐にわたっており、用地補償や道路用地の管理はノウハウが少ない国が多く、トラブルになりがちです。阪神高速の知識と経験を活かし、「どうマネジメントすれば、現地に長く根づくか」という視点で提案やアドバイスをしています。



2 現地での支援活動の状況は？

これまで多数の国の業務に携わっていますが、特にタイは阪神高速と古くから交流のある国で、1979～1990年にかけて長期技術専門家派遣を実施し、2010年にタイ高速道路公社と技術協力覚書を結びました。2011年以降、これまで10年以上にわたって両社の社員を相互に派遣する研修活動も実施しています。



タイからの研修生

また、アフリカ諸国では現在主にケニアとモロッコで活動を行っています。アフリカの高速道路というとピンとこないかもしれません、ケニアの首都ナイロビは大都会で、ナイロビを中心に道路網が広がっています。

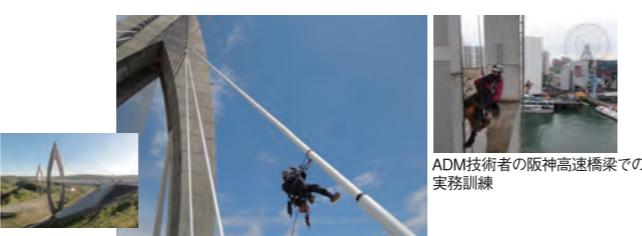
ケニアにおいて阪神高速は、先述した道路維持管理における新たな契約方式の導入に携わったり、ケニアの主要港であるモンバサ港周辺の道路開発に係るコンサルティング業務にも参画しています。



ケニアでの長期専門家の活動の様子



アフリカ北西部に位置するモロッコでは、阪神高速は2015年にモロッコ高速道路会社(ADM)と技術交流の覚書を結びました。それ以来、お互いの技術者を派遣するなど交流を深めたり、(株)特殊高所技術と協働して、同社が保有する作業員がロープを駆使して構造物にぶら下がりながら点検や保守を行う「Ninja-tech」の技術をモロッコに移転する取り組みを行っています。モロッコの技術者がトレーニングを積み、母国で活躍しています。



モハメッド6世橋での特殊高所技術(Ninja-tech)を用いた構造物点検

3 タイに新会社設立？

阪神高速では国際貢献活動からのビジネス展開として、今年4月、タイに新たな合弁会社ASIAM Infra(エイシーエイムインフラ)を設立しました。近年、タイでは道路・橋梁の老朽化によるものと思われる事故が多発し、メンテナンスへの関心が高まっているという背景があります。



All Solutions for Infrastructure and Asset Maintenance

4 受け入れは？ 海外からの研修生の受け入れは？

海外からの研修生は視察団を含め、約30か国から年間300名ほどを受け入れています。研修では大阪湾岸道路西仲部のトンネル建設やリニューアル工事の現場、パーキングエリア、交通管理の対応など阪神高速グループの実際の業務を見ていただきます。

近年、世界各地で自然災害が増えており、阪神淡路大震災で被災した構造物などが展示されている震災資料保管庫は研修生からの反響も大きいです。



グローバルとローカルの両方のマインドで 関西のお役に立ちたい

阪神高速は40年以上国際貢献活動に取り組み、道路のプロとして海外でも高い評価をいただいている。私たちは技術や経験を伝える立場ですが、最近では海外の高速道路会社が持っているノウハウに気づかされることがあります。デジタル分野がとくにそうで、このような気づきを阪神高速の技術にフィードバックしたいと考えます。地域に根差した国際貢献というグローバルとローカルの両方のマインドで、これからも安全・安心・快適な道路サービスをめざします。



写真左より
阪神高速道路株式会社
技術部 国際室
主査 足立貴世
儀賀大己